

# SPA100シリーズの地域別音声パラメータでのコールプログレクションの設定

## 目的

アナログ電話アダプタ(ATA)には、ATA上でローカルに生成される設定可能なコールプログレクションがあります。これらの通知トーンは、受話器を取り上げると再生されます。コールプログレクションは、特定のリズム(リズム/テンポ/ビート)を持つ特定のトーン(音)を提供し、コールのステータスをリレーします。情報をリレーする簡単な方法です。トーンは、さまざまな機能を識別するために使用されます。一般的な例は、ボイスメールがあることを通知する通知として受話器を取り上げる際に4つの短いビーブ音を聞くことです。

プログレクションはデフォルトで設定されるため、そのまま残して学習するのは簡単です。トーンをカスタマイズすることもできます。新しい携帯電話を手に入れるのと同じです。着信コールとテキストメッセージにはデフォルトのサウンドがありますが、それらをカスタマイズすることもできます。

このドキュメントの目的は、SPA100シリーズデバイスの地域音声パラメータでコールプログレクションを設定する方法を示すことです。

## 該当するデバイス

- ・ SPA112
- ・ SPA122

## [Software Version]

- ・ 1.3.1 (003)

## トーンスクリプトの生成

トーンスクリプトは2つの部分に分かれています。cadenceとfrequency。

- ・ Cadence – トーンレンゲス合計(セグメント : On=時間、Off=時間 (周波数))
- ・ 周波数 – dBmの周波数@-level

たとえば、次のようになります。350@-19,440@-19;2(.1/.1/1+2);10(\*0/1+2)

注：トーンスクリプトには、最初に周波数スクリプト、次にキャデンススクリプトが含まれます。また、特定のトーンに適用する要件に従ってトーンを詳細に入力することもできます。

## 地域設定

適切な地域設定を使用してシステムをローカライズするには、[音声] > [地域]ページを使用します。

## リングとキャデンスおよびトーンスクリプトの定義

呼出音とトーンのパターンを定義するために、ATAはスクリプトの概念を使用します。以下は、Cadence Scripts (CadScripts)、Frequency Scripts (FreqScripts)、およびTone Scripts (ToneScripts)の作成に関する情報です。

## CadScript

信号のケイデンスパラメータを指定する127文字までのミニスクリプト。

構文：S1[;S2]、ここで

$S_i = D_i(\text{oni}, 1/\text{offi}, 1[\text{oni}, 2/\text{offi}, 2[\text{oni}, 3/\text{offi}, 3[\text{oni}, 4/\text{offi}, 4[\text{oni}, 5/\text{offi}, 5[\text{oni}, 6/\text{offi}, 6]]]])$ で、on/offセグメントの期間(秒)、 $i = 1$ または2、 $j = 1 \sim 6$ 。D<sub>i</sub>は、セクションの合計期間(秒)です。すべての期間には、1ミリ秒の解像度を提供するために、最大3つの小数点以下の桁数を設定できます。ワイルドカード文字「\*」は、無限の期間を表します。セクション内のセグメントは順番に再生され、全期間が再生されるまで繰り返されます。

例1：60 ( 2/4 )

```
Number of Cadence Sections = 1
Cadence Section 1: Section Length = 60 s
Number of Segments = 1
Segment 1: On=2s, Off=4s
Total Ring Length = 60s
```

例2：固有環(short、short、long):60(.2/.2、.2/.2、.2/.2、1/4)

```
Number of Cadence Sections = 1
Cadence Section 1: Section Length = 60s
Number of Segments = 4
Segment 1: On=0.2s, Off=0.2s
Segment 2: On=0.2s, Off=0.2s
Segment 3: On=0.2s, Off=0.2s
Segment 4: On=1.0s, Off=4.0s
Total Ring Length = 60s
```

## FreqScript

トーンの周波数とレベルのパラメータを指定する127文字までのミニスクリプト。

構文：F1@L1[,F2@L2[,F3@L3[,F4@L4[,F5@L5[,F6@L6]]]] F1-F6はHz単位の周波数(符号なし整数のみ)で、L1-L6はdBmの対応するレベル(10進数の最大桁数)カンマの前後の空白文字は許可されます(推奨されません)

例1：コールウェイティングトーン：440@-10

```
Number of Frequencies = 1
  Frequency 1 = 440 Hz at -10 dBm
```

例2 : ダイヤルトーン : 350@-19、440@-19

```
Number of Frequencies = 2
  Frequency 1 = 350 Hz at -19 dBm
  Frequency 2 = 440 Hz at -19 dBm
```

## ToneScript

```
Number of Frequencies = 1
  Frequency 1 = 440 Hz at -10 dBm
```

コールプログレストーンの頻度、レベル、およびケイデンスパラメータを指定する最大127文字のミニスクリプト。最大127文字まで入力できます。

構文 : FreqScript;Z1[;Z2]。セクションZ1は、CadScriptのS1セクションに似ていますが、各オン/オフセグメントの後に周波数コンポーネントパラメータが続く点が異なります。Z1 = D1(oni,1/offi,1/fi,1[,oni,2/offi,2/fi,2[,oni,3/offi,3/fi,3[,oni,4/offi,4/fi,4,4[,oni,5/offi,5/fi,5]]]),fi,where,fi j = n1[+n2]+n3[+n4[+n5[+n6]]]および  $1 < n_k < 6$  は、FreqScriptで指定された周波数成分のうち、そのセグメントで使用される成分を示します。セグメントに複数の周波数成分が使用されている場合、それらの成分は合計されます

例1 : ダイヤルトーン : 350@-19,440@-19;10(\*0/1+2)

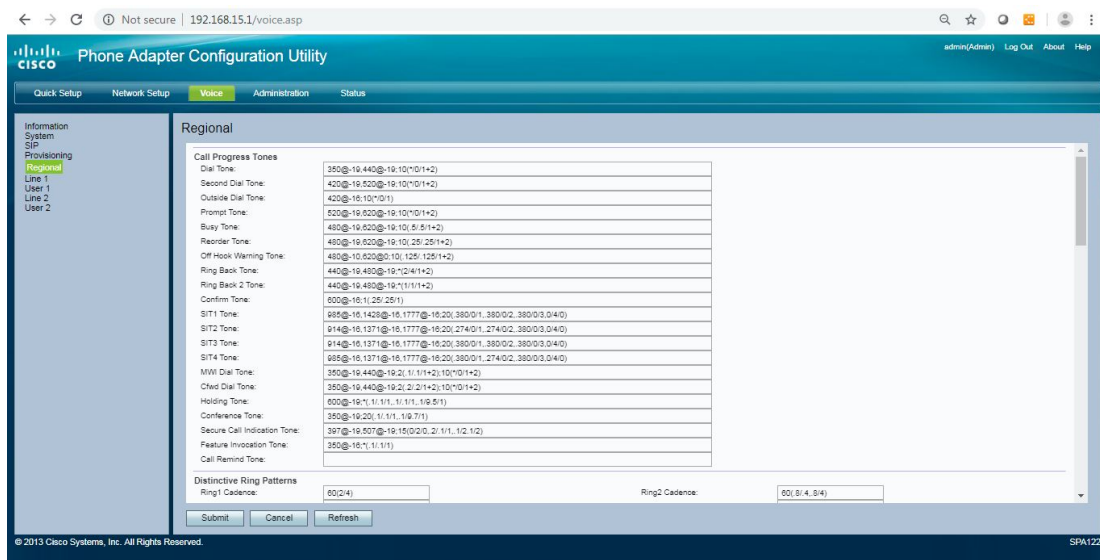
```
Number of Frequencies = 2
  Frequency 1 = 350 Hz at -19 dBm
  Frequency 2 = 440 Hz at -19 dBm
Number of Cadence Sections = 1
  Cadence Section 1: Section Length = 10 s
    Number of Segments = 1
      Segment 1: On=forever, with Frequencies 1 and 2
Total Tone Length = 10s
```

例2 : 断続トーン : 350@-19,440@-19;2(.1/.1/1+2);10(\*0/1+2)

Number of Frequencies = 2  
 Frequency 1 = 350 Hz at -19 dBm  
 Frequency 2 = 440 Hz at -19 dBm  
 Number of Cadence Sections = 2  
 Cadence Section 1: Section Length = 2s  
 Number of Segments = 1  
 Segment 1: On=0.1s, Off=0.1s with Frequencies 1 and 2  
 Cadence Section 2: Section Length = 10s  
 Number of Segments = 1  
 Segment 1: On=forever, with Frequencies 1 and 2  
 Total Tone Length = 12s

## 地域音声パラメータのコールプログレスストーン

ステップ1: 電話アダプタ設定ユーティリティにログインし、ユーザインターフェイスから [Voice] > [Regional] タブを選択します。[地域] ページが開き、既定の設定が適用されます。デフォルトのままにするか、変更することができます。



ステップ2:[Dial Tone]フィールドにスクリプトを入力し、電話番号の入力を求めるプロンプトを表示します。

ダイアルトーンのデフォルト : 350@-19,440@-19;10(\*0/1+2)。

ステップ3:[Second Dial Tone]フィールドのスクリプトを入力します。このフィールドは、三者通話をダイヤルするときに使用します。

2番目のダイアルトーンのデフォルト : 420@-19,520@-19;10(\*0/1+2)。

ステップ4:[Outside Dial Tone]フィールドのスクリプトを入力します。これは、ダイアルトーンの代わりです。内線番号ではなく、外部電話番号を入力するように求められます。これは、ダイヤルプランでカンマ文字が使用されることでトリガーされます。

外部ダイヤルのデフォルト : 420@-16;10(\*0/1)。

ステップ5:[Prompt Tone]フィールドにスクリプトを入力します。このプログラムでは、コール転送番号の入力を求められます。

プロンプトトーンのデフォルト : 520@-19,620@-19;10(\*0/1+2)。

ステップ6:[Busy Tone]フィールドのスク립トを入力します。このスク립トは、発信コールに対して486 RSCを受信したときに再生されます。

ビジートーンのデフォルト : 480@-19,620@-19;10(.5/.5/1+2).

ステップ7:[Reorder Tone]フィールドの値を入力します。これは、発信コールが失敗した場合、または確立されたコール中に遠端が切断された後に再生されます。リオーダー音は、ダイヤルトーンまたはその代替がタイムアウトすると自動的に再生されます。

リオーダー音のデフォルト : 480@-19,620@-19;10(.25/.25/1+2).

ステップ8:[オフフック警告トーン(Off Hook Warning Tone)]フィールドのスク립トを入力します。これは、発信者がハンドセットを受け台に正しく置いていない場合に再生されます。オフフック警告トーンは、リオーダー音がタイムアウトすると再生されます。

オフフック警告トーンのデフォルト : 480@-10,620@0;10(.125/.125/1+2).

ステップ9:[Ring Back Tone]フィールドのスク립トを入力します。これは、遠端が呼び出し中に発信コールで再生されます。

オフフック警告トーンのデフォルト : 440@-19,480@-19;\*(2/4/1+2)

ステップ10:[Ring Back 2 Tone]フィールドのスク립トを入力します。着信側が発信 INVITE要求に対してSDPなしでSIP 182応答で応答する場合、ATAはリングバックトーンではなく、このリングバックトーンを再生します。

デフォルト設定 : [リングバックトーン(Ring Back Tone)]と同じですが、ケイデンスが1のオンと1のオフが異なります。

リングバック2トーンのデフォルト : 440@-19,480@-19;\*(1/1/1+2)

ステップ11:[Confirm Tone]フィールドのスク립トを入力します。これは、最後の入力値が受け入れられたことを通知する短いトーンです。

トーンのデフォルトの確認 : 600@-16;1(.25/.25/1)。

ステップ12:[SIT1 Tone]フィールドのスク립トを入力します。これは、発信コールを行うときにエラーが発生したときに再生されるリオーダー音の代わりに使用できます。

SIT1トーンのデフォルト : 985@-16,1428@-16,1777@16;20(.380/0/1,.380/0/2,.380/0/3,0/4/0).

ステップ13:[SIT2 Tone]フィールドのスク립トを入力します。これは、発信コールを行うときにエラーが発生したときに再生されるリオーダー音の代わりに使用できます。

SIT2トーンのデフォルト : 914@-16,1371@-16,1777@16;20(.274/0/1,.274/0/2,.380/0/3,0/4/0).

ステップ14:[SIT3 Tone]フィールドのスク립トを入力します。これは、発信コールを行うときにエラーが発生したときに再生されるリオーダー音の代わりです。

SIT3トーンのデフォルト : 914@-16,1371@-16,1777@-16;20(.380/0/1,.380/0/2,.380/0/3,0/4/0)。

ステップ15:[SIT4 Tone]フィールドのスク립トを入力します。これは、発信コールを行うときにエラーが発生したときに再生されるリオーダー音の代わりに使用できます。

SIT4トーンのデフォルト : 985@-16,1371@-16,1777@-16;20(.380/0/1,.274/0/2,.380/0/3,0/4/0)。

ステップ16:[MWI Dial Tone]フィールドのスク립トを入力します。メールボックスに未開封のメッセージがある場合、ダイヤルトーンの代わりに再生されます。

MWIダイヤルトーンのデフォルト : 350@-19,440@-19;2(.1/.1/1+2);10(\*0/1+2)

ステップ17:[Cfwd Dial Tone]フィールドのスク립トを入力します。これは、すべてのコールが転送されるときに再生されます。

[Cfwd Dial Tone default]:350@-19,440@-19;2(.2..2/1+2);10(\*0/1+2)

ステップ18:[Holding Tone]フィールドのスク립トを入力します。これは、発信者が遠端で保留にされたことを通知します。

保留トーンのデフォルト : 600@-19\*(.1/.1/1,.1/.1/1,.1/9.5/1)

ステップ19:[Conference Tone]フィールドのスク립トを入力します。これは、会議コールの進行中に、すべての参加者に再生されます。

会議トーンのデフォルト : 350@-19;20(.1/.1/1,.1/9.7/1)。

ステップ20:[セキュアコール指示トーン(*Secure Call Indication Tone*)]フィールドのスク립トを入力します。これは、コールが正常にセキュアモードに切り替えられたときに再生されます。会話に干渉しないように、短時間 ( 30秒未満 ) および縮小レベル ( 19 dBm未満 ) でのみ再生する必要があります。

Secure Call Indication Tone default:397@-19,507@-19;15(0/2/0,.2/.1/1,.1/2.1/2)。

ステップ21:[Feature Invocation Tone]フィールドにスク립トを入力します。これは、機能が実装されるときに再生されます。

Feature Invocation Tone default:350@-16;\*(.1/.1/1)

ステップ22:[送信]ボタンをクリックして、変更を保存します。



この図は、この記事で説明する各行のデフォルト値を示しています。

## Regional

### Call Progress Tones

Dial Tone:	350@-19,440@-19;10(*0/1+2)
Second Dial Tone:	420@-19,520@-19;10(*0/1+2)
Outside Dial Tone:	420@-16;10(*0/1)
Prompt Tone:	520@-19,620@-19;10(*0/1+2)
Busy Tone:	480@-19,620@-19;10(5/5/1+2)
Reorder Tone:	480@-19,620@-19;10(25/25/1+2)
Off Hook Warning Tone:	480@-10,620@0;10(.125/.125/1+2)
Ring Back Tone:	440@-19,480@-19;*(2/4/1+2)
Ring Back 2 Tone:	440@-19,480@-19;*(1/1/1+2)
Confirm Tone:	600@-16;1(.25/.25/1)
SIT1 Tone:	985@-16,1428@-16,1777@-16;20(.380/0/1,380/0/2,380/0/3,0/4/0)
SIT2 Tone:	914@-16,1371@-16,1777@-16;20(.274/0/1,274/0/2,380/0/3,0/4/0)
SIT3 Tone:	914@-16,1371@-16,1777@-16;20(.380/0/1,380/0/2,380/0/3,0/4/0)
SIT4 Tone:	985@-16,1371@-16,1777@-16;20(.380/0/1,274/0/2,380/0/3,0/4/0)
MWI Dial Tone:	350@-19,440@-19;2(.1/1/1+2);10(*0/1+2)
Cfwd Dial Tone:	350@-19,440@-19;2(.2/2/1+2);10(*0/1+2)
Holding Tone:	600@-19;*(.1/1/1,.1/1/1,.1/9.5/1)
Conference Tone:	350@-19;20(.1/1/1,.1/9.7/1)
Secure Call Indication Tone:	397@-19,507@-19;15(0/2/0,2/1/1,.1/2.1/2)
Feature Invocation Tone:	350@-16;*(.1/1/1)

### Distinctive Ring Patterns

Ring1 Cadence:	60(2/4)	Ring2 Cadence:	60(.8/4,8/4)
Ring3 Cadence:	60(.4/2,4/2,8/4)	Ring4 Cadence:	60(.3/2,1/2,3/4)
Ring5 Cadence:	1(.5/5)	Ring6 Cadence:	60(.2/4,2/4,2/4)
Ring7 Cadence:	60(.4/2,4/2,4/4)	Ring8 Cadence:	60(0.25/9.75)

詳細については、『SPA 100シリーズ電話アダプタ管理ガイド』の第5章を参照してください ( 地域設定については64ページから開始 )。